

イギリスで動物介在活動を学ぶ イギリス

2016年9月11日～18日

4年健康総合科学科コース スミスアンジェリア

渡航先での活動内容

動物の力を人間の健康に活かす「動物介在活動」について学ぶため、イギリスにおいて動物介在活動を実践している施設を訪れた。Stroke Rehab Dogsでは、脳梗塞からのリハビリに動物介在活動を取り入れている様子を見学し、実施者及び利用者の方からお話を伺った。動物介在活動をはじめとして様々な動物ふれあいプログラムを行っているADO therapyでは、お話を伺ったほか活動の様子も見学させて頂いた。都市型農場であるStepney City Farmでは、誰でも気軽に参加できる農場ボランティアに実際に参加し、動物の世話などを行うことで、農場が地域の人々を結んでいる様子を実感した。また、農場が行っている動物介在活動についてお話を伺った。London Zooでは、様々な動物についての教育的なプログラムなどが行われている様子を見学し、イギリスにおける人と動物の共生の様子を垣間見た。The Mayhew Animal Homeでは、病院においてボランティアが動物介在活動を行う様子を見学させて頂いた。

目的を達成できたか

種々の場所における動物介在活動の実践を見学することができ、更にはその利用者、実施者などの方からお話を伺うことができたので、イギリスにおける動物介在活動について学ぶという目的についてはある程度達成できたように思う。ただ、訪れたかったもののこちらの日程の都合上訪れることのできなかった場所もあったので、それらの場所はいずれ訪れたいと思っている。



London Zooのカワウソ水槽前に設置されていた、カワウソについての教育的絵本。イギリスにおける動物と人間の距離の近さは、このような所にも表れているように感じた。

後輩へのアドバイス

与えられた機会を逃すことなく、様々なことに挑戦してほしいと思います。特に海外研修については、未知のことに対する不安もあるかもしれませんが、多少なりとも興味があるなら躊躇わずに飛び立つと良いのではないかと思います。なお、私は飛行機のトラブルで8時間くらい空港で時間を潰すことになったので、そういう時のために備えて時間を潰せるものを持っておくと良いです。

研修支援制度に望むこと

研修内容の立案から研修中、そして研修後の発表まで、大学からは様々な面からバックアップをして頂きました。非常に充実した支援体制で、私が研修を有意義に終えることができたのは支援してくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

Stroke Rehab Dogsのボランティアの方々と、その飼犬たち。日本と比べると大型犬を飼育している人が多いように感じた。



グローバルな視点とは何か

グローバルな視点とは、すなわち文化の違いを考慮することだと感じた。日本とイギリスでは文化が違い、そのため動物介在活動についてもその文化の違いを考慮して比較する必要がある。イギリスの方式を日本で参考にするにしても、その際には文化の違いを検討したうえで、日本の文化にもっとも適合する形で取り入れる必要があるだろう。

将来の進路決定へどう影響したか

私は進路として就職を選択しており、その選択そのものは変わることはなかった。しかし、これまでの私が国外に出ることを躊躇していたのに対して、海外研修を経験したことで、国外に出る勇気を獲得したように思う。今後の人生で、留学はもちろん、仕事などにおいても、海外に行く機会があれば、躊躇わずに生きたいと考えている。

目的以外に学んだ点、反省点

最も反省したのは自分の英語力の貧弱さであった。訪問した施設では、英語を聞き取ることはできても、自分の意見などを伝えることができずに歯がゆい思いをすることが多くあった。英語においては読み書きだけでなく、リスニング力、そして何よりスピーキング力が重要であることを痛感した。今後はより一層英語の学習に力を入れたいと思っている。



Stepney City Farmのヒツジ。他にもヤギやニワトリなど多くの動物が暮らしており、それらの世話はスタッフやボランティアが共同で行っている。